

## 目 次

巻 頭 言	石 南 國
“鏡”の論理から“魂”の論理へ ——人間記号論序説——	西 勝 忠 男 (1)
北欧中世 (スウェーデン) における自力救済慣行 ——実力社会の一考察——	伏 島 正 義 (19)
潮湯の偏在性に関する地理学的予察 ——日本における海水浴普及との関連から——	小 口 千 明 (57)
ジョイスの“Exiles”における受難の思想について	茂 呂 公 一 (75)
Eloisa と Belinda の相違	石 川 郁 二 (95)
状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に 見られる共通特性	鎌 田 精三郎 (113)
R. Huch の〈スイスの春〉覚え書 ——研究ノート——	鈴 木 敏 夫 (127)
J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって	藤 井 明 彦 (141)
ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と 人物描写について	飯 塚 英 一 (151)
エアリエルの材源再考	門 野 泉 (163)
パトナム, シドニーの <i>sprezzatura</i> 精神 ——宮廷世界の美学と「ルネサンス・ ヒューマニズム」の対峙——	平 松 哲 司 (181)
The Dimensions of the U. S.—Japanese Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue .....	古 川 友 章 (199)

(2)

神話概念の変遷Ⅱ

——翻訳語としての『神話』をめぐる(上)—— ……天 沼 春 樹 (213)

自己言及のかたち

——『イリュミナシオン』『生活Ⅲ』と「生活Ⅰ」を読む——…新 宅 巖 (241)

フロベールにおける登場人物と場面……………大久保 政 憲 (255)

『息 子』

アルトゥール・シュニッツラー

——翻 訳——……………春 日 正 男 (280)

『バシュラールと過したひと夏』とその研究 (Ⅰ)……………越坂部 則 道 (306)

アンドレ・ジッドの方法 (Ⅵ)……………陶 山 曠 (324)

アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書——

絵画における悲劇的表現をめぐる」の翻訳と解題…堀 田 郷 弘 (332)

「シルス・マリーア」をめぐる ……河 内 信 弘 (356)

日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策 ……大豆生田 稔 (380)

歌人 安江不空・序(3)

——大和歌の問題——……………小 野 浩 (418)

『志多良』の序文をめぐる ……黄 色 瑞 華 (434)

高橋克巳論——虚無僧のパトス——……………山 口 勲 (452)